障がいを持つ人も持たない人も共に生きる

いきいき村から

2018春号

みんなが
いのちをくれた
みんなが
ゆうきをくれた

いきいき村に25年目の春が来た!

6月16日(土)は春まつりです。

午前11時〜午後2時、ポランの広場に集合!

今年は、恒例の森川倶志タンゴアンサンブル風の館コンサートのほか、法人設立25周年を記念して、河南中学校吹奏楽部の皆さんによる演奏や「ガソリンアレイ」の野外ライブを企画しています。好天を祈り、皆さまの笑顔で爽やかな風をポランの広場に吹かせましょう。

INDEX

- 理事長の新たな思い 2
- 生まれ変わった広報誌 3
- しんのすけブランド 4-5
- 法人からのお知らせ 6
- ご支援に感謝 7
- 山崎文子さんインタビュー 8

世界がぜんたい幸福にならないうちは 個人の幸福はあり得ない

（宮澤賢治「農民芸術概論」）

馬場勝彦は、この言葉を信じ切った。そして、実践しようとした。賢治の血を引く宮澤和樹さんは「世界がぜんたい」の「が」の使い方にこそ、「生きとし生きるものすべてが」という強いメッセージが込められている、という。

底流に賢治の理想を 馬場さんの墓前に誓う

岩根理事長

この春、彼岸の中日に盛岡市名須川町にある馬場家の菩提寺を訪れ、故馬場勝彦さんの墓前に春の花を手向けて参りました。理事長に推されて早や1年、私自身の非力さから悔むことばかり。愚痴とお詫びを聞いてもらって来ました。

馬場さんが逝去されたのは平成16年12月13日。翌17年4月24日には後ろ盾とも頼りにしていた主治医で理事の石川敬治郎先生が、同12月12日には知恵袋ともいうべき理事の寺沢一雄さんが相次いで亡くなり、この間に施設職員の不祥事が発生と、とても心細い思いをしたことが思い出されました。当時もその後も事ある度に支えてくださった伊藤利巳さんも昨年の暮れの12月14日、馬場さんのお側に逝ってしまわれました。

25年前の法人設立準備委員会メンバーで未だ法人に関りを持つ者はとうとう私だけになってしまった。そんな弱気を吐露し終わったとき、あの馬場さんのやわらかく自信に満ちた笑顔と声が背中を押してくれたように感じられました。

そう今は、いい若い職員が集まっていい仕事をして障がいを持つ方々をしっかりと守ってくれている。その職員を守ってくれているのは福祉と組織に理解のある新しい役員であり、智恵と力を貸してくれている。しかも、昨年からは新しく着任した法人事務局長が元気丸施設長を兼ねて大いに力を注いでいてくれている。力落としする理由は何もない。

25年前に馬場さんは、いきいき牧場設立に当たって宮澤賢治が求めた理想と夢を底流に置きたいと告げ、賢治の作品からのイメージやモチーフの中から「ポランの広場」や「けんじゅう公園」「火山発電所」など多くの名前を思い浮かべていました。その名を拝借するには、賢治の実弟・宮澤清六さんの承諾が欠かせません。そこで、清六さんと親交のある伊藤さんに仲介の労をお願いし、結果、清六さんからの快諾を得ることができました。いきいき牧場が賢治作品の名前に包まれるいきいき村になったいきさつでもあります。

私は改めて、波長の合う人とのめぐりあいを大切にしながら、新たな喜びを交歓できる関係づくりを築き続けようと心に誓っています。

初代副理事長 伊藤利巳さん、逝く

右の写真は、法人設立20周年記念コンサートのため来盛した永六輔さんをサポートする伊藤さん（上）

いきいき牧場・初代副理事長で顧問の伊藤利巳（いとう・としみ）さんが平成29年12月14日、病気のため急逝された。89歳だった。花巻出身、盛岡在住。元岩手県職員。

社会福祉法人いきいき牧場の設立（平成5年10月）準備段階から創立者・馬場勝彦さん（平成16年12月13日逝去）の「参謀」として東奔西走。馬場さん亡き後も終生、いきいき牧場を支え続けた。馬場さんの遺稿集「もりおかのガキ大将―馬場勝彦とその仲間たち」（平成18年発行）＝写真下＝では編集アドバイザー、法人設立20周年時には記念誌編集委員長を務めた。

長男の伊藤純さんによれば「県庁では長く農政の仕事に尽力し、定年後は福祉の世界に飛び込んだ。常に何事にも全力で取り組む、いわば挑戦者だった」という。趣味も多彩で、詩吟、短歌、水墨画、山歩きなど、これまた全力だった。

快晴の青空に満開の桜――。今年は、日によって寒暖の差が大きくてちょっとやきもきしました。でも、元気丸は4回に分けて、それぞれお団子持参で元気に楽しみました。のびやか丸は、紫波町の城山公園です。桜の木の下に寝転んで「お花見、最高だぁー」。

いきいき村に春が来た！

25周年、広報誌も生まれ変わりました。

広報誌「いきいき村から」を全面刷新しました。縦書き表記を主体にするなど、体裁をがらりと変えました。

大事なのは内容です。前号（昨年12月発行の№57号）から編集委員会を新たに発足させました。7人の委員に、岩根多喜男理事長、印刷・制作を請け負う杜陵高速印刷㈱の担当者・高橋和宏さんを交えて随時、ミーティングを開き、あれこれ話し合っています。思いは一つです。いきいき村を好きになってくださる方を一人ずつでも増やしていきたい、そのための広報誌づくりは――。

いきいき牧場創立者の馬場勝彦さんは、スーパー広報マンでした。今は岩根多喜男がリーダーです。「広報」の大切さを改めて強く認識し、まず「いきいき村から」の刷新に取り組み始めた次第です。読者の皆さま方の声に耳を傾け、今後さらに工夫していきたいと考えています。

以下、編集スタッフのご挨拶です。

編集長・田中　信明

♠今までと趣向が異なりますが、利用者さんの笑顔が伝われば、と思っています。

下長根　正則

♠初のドローン撮影ということで2週間前から週間天気予報とにらめっこしながら当日を迎えました。　吉岡　哲也

♥利用者の方々の活動や我々の取り組みを社会に発信することも福祉の仕事の一つ。今回の広報誌づくりを通じて再確認することができました。

山本　円

♥ドローン空撮でいきいき村全容を、応援してくださる皆さまにお伝えできてうれしく思います。　米澤　弘子

♥新しい試みをいくつも詰め込んだ、特別な広報になりました。変わらない大切なものも残しつつ、伝えるため、つながるための術を考えてきたいと思います。　松永　和代

♠初めて自分が携われた広報誌が、無事に発行できてすごく嬉しいです。読んでくださっている皆さま、編集でご協力を頂いた皆さまに感謝申し上げます。　三上　陽平

表紙のつぶやき

8月21日　みんながいのちをくれた　みんながゆうきをくれた

9月14日　あいでいっぱいになった人は　あいせる人です

9月27日　花をそだてて　みたら　人それぞれの生きかたをみているみたい

10月5日　こえをだして　なきたい　こえをだしてわらいたい　こえをだしてはなしたいです

10月18日　なやんでいる　ときが人間らしいです

11月21日　人とかたりたいからあなたとふれあう　あなたにみとめてほしいから　わたしはかたる

のびやか丸の利用者さんの日記です。詩のように綴られた、日々の思い。これを書いた18歳の頃、彼は声が出ませんでした。今、30歳。人を思うやさしさはその頃のまま、前を向く強さも携え、話すこともできるようになりました。

（松永　和代）

◇表紙の題字は、馬場勝彦さんの直筆から拾いました。写真は、杜陵高速印刷・高橋和宏さんによるドローン撮影です。

いきいき牧場 トピックス

社会参加の願い込め「しんのすけブランド」

元気丸・織り班の仕事だ いちろう農園に 機織りの音が響く

それは「しんのすけ」。元気丸の利用者さん8人が所属する作業班「織り班」が作り出す手芸作品のブランド名です。オンリーワンの手づくり。風の村民の方々の間でも知る人ぞ知る人気アイテムなんですよ。

しんのすけブランドを生み出す織り班の作業場は、いきいき村から車で3分足らずの「いちろう農園」にあります。盛岡から宮古に通じる国道106号線、通称・宮古街道からいきいき村を目指して北へ向かうトンネルを抜けると、山あいに昔懐かしい風景が開けます。のびやか丸の利用者の方々が作付けする広大な畑が広がり、元気丸の利用者さんが花や野菜をつくる畑やビニールハウスがあります。その入り口付近に建つ「母屋」が、織り班の作業場です。

今日も機織りの音が聞こえます。音の主は、機織りをこよなく愛する佐藤慎之助さんです。生活支援員の髙村広美と

余暇支援活動で調理実習
のびやか丸の土曜休館日を活用した「余暇支援活動」が3年目になります。お昼ごはんを皆で一緒に――という日が多いので、手づくりの料理も手慣れたもの。ビーフシチュー、餃子、お店でも出そうなポテサラバーグまで、レパートリーが広がっています。

玉ネギのマルチシート張り
AAR Japan（難民を助ける会）から寄贈された歩行式トラクターを使ってマルチを張っています。秋の収穫が楽しみです。

なぜか「万歳!」
ドローン撮影会　4月27日　ポランの広場

元気丸の忘年会旅行 12月8、9日

宮城県の作並温泉1泊
ニッカウヰスキーの見学も

お花見会での軽食会 4月24日

正月2日は餅つき大会
熊谷峰男後援会代表幹事のご協力で

いきいき牧場 トピックス

佐藤慎之助さん（写真右）ら8人
人気のマフラーは1200円から

関麻紀が、慎之助さんの選ぶ横糸が映えるよう、縦糸の準備をします。慎之助さんは機を織ります。織り上がった布は、織り班の利用者さんの分業でマフラーやバック、名刺入れといった品々として命を吹き込まれていきます。

そう、しんのすけブランドの主人公は、慎之助さんだけではありません。織り班メンバーの共同作業なのです。

「しんのすけ」というブランドを通して、いきいき村の皆さんに社会に参加してほしい、参加したい――そんな皆の思いがしんのすけブランドには込められているのです。

しんのすけシリーズは、大人気のマフラーが1200円からお求めいただけます。一点ずつの手作りのため数に限りはありますが、6月の春まつりにお越しいただく皆さんに喜んでいただけるよう、一生懸命に作っている毎日です。きっと皆さんの心をつかむはずです。風の村民の皆さまのご来場をお待ちしております。

（山本　円）

法人からのお知らせ

平成30年度 事業計画・収支予算の概要

いきいき牧場の平成30年度事業計画、収支予算は、2月26日の第5回理事会で同意され、3月7日の第3回評議員会で原案どおり承認されました。

事業計画は、前年度同様に法人創設者・馬場勝彦氏が掲げた「いきいき牧場建設構想・夢編より」を基本理念とした社会福祉の目的達成を経営の基本方針とし、障がいを持つ人も持たない人も共に生きる社会の実現を目指します。

引き続き5拠点体制で、法人組織の充実・強化と安定した経営の確立、事業の充実と新たな事業への挑戦、人材育成のための施策推進に積極的に取り組んでいきます。

今年度も法人の健全な運営に温かいご指導、ご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げ、平成30年度事業計画・収支予算の概要の報告とさせていただきます。

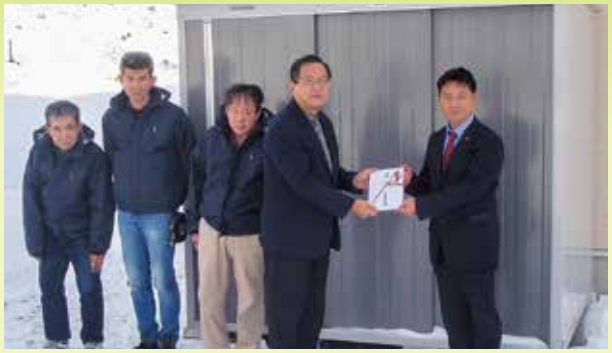
新しいスタッフを紹介します。

元気丸の生活支援員としてがんばっています。

大原　朋巳

熊谷　愛美

佐藤　采奈



自動車総連岩手地方協議会から、のびやか丸に作業用の防寒ジャンバー30着、元気丸にグループホーム「クローバーの家3号館」の物置を寄贈していただきました。12月28日の贈呈式です。物置の前で、自動車総連の志賀弘基議長（右端）から目録を受け取る岩根多喜男理事長とのびやか丸の利用者さんたち。

資金収支予算書（当初予算）

（自）平成30年 4月 1日
（至）平成31年 3月31日

（単位：円）

勘定科目			予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入	就労支援事業収入	10,273,000	8,915,000	1,358,000	
		障害福祉サービス等事業収入	474,032,000	457,744,000	16,288,000	
		経常経費寄附金収入	570,000	3,900,000	△ 3,330,000	
		受取利息配当金収入	8,000	8,000	0	
		その他の収入	1,708,000	2,396,000	△ 688,000	
		事業活動収入計(1)	486,591,000	472,963,000	13,628,000	
	支出	人件費支出	341,546,000	315,689,000	25,857,000	
		事業費支出	65,687,000	69,983,000	△ 4,296,000	
		事務費支出	56,393,000	56,600,800	△ 207,800	
		就労支援事業支出	10,273,000	10,273,000	0	
		支払利息支出	14,000	14,000	0	
		その他の支出	742,000	742,000	0	
		事業活動支出計(2)	474,655,000	453,301,800	21,353,200	
	事業活動資金収支差額(3)＝(1)-(2)		11,936,000	19,661,200	△ 7,725,200	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	4,600,000		4,600,000	
		固定資産売却収入		220,000	△ 220,000	
		施設整備等収入計(4)	4,600,000	220,000	4,380,000	
	支出	固定資産取得支出	17,582,000	8,329,000	9,253,000	
		施設整備等支出計(5)	17,582,000	8,329,000	9,253,000	
	施設整備等資金収支差額(6)＝(4)-(5)		△ 12,982,000	△ 8,109,000	△ 4,873,000	
その他活動による収支	収入	積立資産取崩収入	8,450,000	350,000	8,100,000	
		その他の活動収入計(7)	8,450,000	350,000	8,100,000	
	支出	積立資産支出		28,400,000	△ 28,400,000	
		その他の活動による支出	4,262,000	4,199,000	63,000	
		その他の活動支出計(8)	4,262,000	32,599,000	△ 28,337,000	
	その他の活動資金収支差額(9)＝(7)-(8)		4,188,000	△ 32,249,000	36,437,000	
予備費支出(10)			10,424,000	3,005,200	7,418,800	
当期資金収支差額合計(11)＝(3)＋(6)＋(9)-(10)			△ 7,282,000	△ 23,702,000	16,420,000	
前期末支払資金残高(12)			128,805,541	152,507,541	△ 23,702,000	
当期末支払資金残高(11)＋(12)			121,523,541	128,805,541	△ 7,282,000	

いつもありがとうございます。

風の村民の皆さまを始め、いきいき牧場をご支援くださるすべての方々に心から感謝致します。

■春の陽射しも感じられる今日この頃、皆々様、御清祥の事とお慶び申し上げます。このたびは〝しんのすけ〟さんの織物で作られた美しいバックとポーチをご恵送下さいまして真にありがとうございました!! 美しい色あいと優しい感触に昨年お伺いさせていただきました素晴らしい日のひと時を思い起こし、胸がいっぱいでございます。皆々様の日々の努力の賜と、その活動に心から感銘致します。またお伺い出来る日を楽しみに致しております。

（3月、アメリカ・菅原研、弘子）

■いきいき村の皆様からの美味しいリンゴジュースを頂けることに感謝です。

（2月、盛岡市・森鍵郁子）

■リンゴジュース、ありがとうございました。

（1月、京都府・近藤洋一）

■今年はいきいき村創立25周年。また新しい「まことの村」のイメージ実現をめざして発展を祈ります。

（1月、盛岡市・福田學）

■施設運営、特に職員皆様の処遇改善にも役立てて下さい。結果として利用者様の幸せになると思います。

（1月、盛岡市・伊東宗行）

■絶品のリンゴジュース、嬉しく拝受致しました。大忙しの日で、疲れているところに頂戴したリンゴジュース。クリスマスイブに頂くはず。我慢できなくて、いきなり一缶！ まさに〝甘露〟 一気に元気が蘇ってきました。「いきいき村から」を熟読させて頂き、心は村に飛びました。感謝と共に皆様の来年のお幸せをお祈り致します。

（12月、東京都・山崎陽子）

■23日にリンゴジュース届きました。ありがとうございました。ジュースをいただくと「あーもうこの季節か」と、時間の早さに驚かされます。怖いことばかりの世の中です。心強く明るく過ごしていきたいものです。

（12月、東京都・山田紀子）

■例年も早く雪が降りましたね。お元気でしょうか。今年も村民税を納められる事に感謝致します。お風邪など召しませんように。あたたかいお正月をお迎え下さい。

（12月、岩手町・熊谷直子）

■おいしいリンゴジュース、ありがとうございました。

（12月、埼玉県・船田靖子）

■今年もおいしいリンゴジュースをありがとうございました。四季を通してのご丹精と温かいお気持ちの結晶を感謝と共に頂きます。皆様、どうぞよいお年を。

（12月、東京都・榎本祥子）

■おいしいリンゴジュース、感謝を込めて賞味させて頂きます。ありがとうございました。

（12月、東京都・田中良江）

■宮城の地より応援しています。お元気で！

（12月、宮城県・菅野則明）

■村民や職員の方々、ラッキーちゃんもお元気でしょうね。チューリップの開花が楽しみです。皆様方のご多幸をお祈りしています。

（11月、東京都・吉野倫子）

――ラッキーは、グループホーム「なごやかハウス」で元気に冬を越しました。（のびやか丸）

■各地での天変地異に心痛む日々です。世界中の「五風十雨」を願いつつ……。

（10月、福岡県・宮地誠子）

■伴侶を失い4年半、死別悲嘆症より、ようやく脱しました。見失ってしまった自分を見つけました。

（10月、福島県・倉林洋子）

■頑張って下さい。

（12月、東京都・難藤てい子）

お名前などに間違いがありましたら、どうぞ本誌編集委員会までご指摘ください。次号で訂正致します。イラストは馬場勝彦さんの遺作です。

■「いきいき村」村民税

（昨年10月1日～今年3月31日）

【岩手県】阿部ゆき子　餘目忠吉　アリス(株)　いきいき牧場親睦会　居酒屋・愛染横丁　伊東宗行　及川禎子　桂土地　川嶋明澄　川守田志行　熊谷直子　坂薫子　佐久山衛　佐々木久美子　佐々木忠栄　真田昌之助　志和敬子　多田研三　田中進　玉山倫子　千葉玲子　アクア工業(株)金澤和哉　樋ノ口文雄　福田學　藤村トシ　渕向クニ　医)みうら産婦人科内科医院三浦達雄・優子　南澤俊郎　森鍵郁子　守口歯科クリニック・守口憲三　柳田宏　医)山口クリニック・山口淑子

【東京都】榎本祥子　及川リウ子　清水康之　田中良江　長坂美環子　難藤てい子　渡辺あつ子　吉野倫子

【宮城県】菅野則明

【福島県】倉林洋子

【千葉県】柴田和子

【埼玉県】船田靖子

【神奈川県】平石忠子

【京都府】近藤洋一

【愛媛県】南宇和郡精神障害者の社会参加を進める会

【福岡県】宮地誠子

【台湾】荒屋光夫

■募金箱

【岩手県】鎌田米穀店　桜ん坊店　しらさわせんべい店　ぴょんぴょん舎本店　ぴょんぴょん舎駅前店

いきいき村から2018春号
いきいき牧場広報誌No.58
平成30年5月16日発行

編集・発行　岩手県盛岡市川目6－93－4（社福）いきいき牧場
電話　019・666・2323　〒020－0812
E-mail　ikiiki@seagreen.ocn.ne.jp

いきいき にこにこ いんたびゅー

風の村民　山崎文子さん

グラフィックデザイナー、いきいき牧場評議員

岩手県岩泉町生まれ。盛岡第二高等学校、日大芸術学部卒。山崎文子デザインオフィス主宰、岩手県社会福祉協議会デザイン講師、盛岡市ものづくりクリエイティブボード委員。
クリスタルアート制作を得意とする。岩手医大がんサロンでのアートセラピー活動も。

いきいき牧場では、利用者さんと施設職員を「土の村民」、後援会の会員を「風の村民」と呼ぶ。宮澤賢治の理想郷イーハトーボを目指して「いきいき村」を立ち上げた馬場勝彦さんは、「風よ、土を肥やせ！」との思いを込めた。山崎文子さんには、その風の村民として、いきいき牧場への激励メッセージをお願いしたいとインタビューを申し込んだ。

「馬場さんは、信じ切る強さを持った人」

「未来を信じ切る強さを持っていた人」。馬場さんのことを、山崎さんはそう言い切る。だからこそ今、馬場さんが作ったいきいき牧場の個性をあえて明確にしていってほしい、と願う。

「ここで死んでいいんだよ。ここで恋愛したっていいんだよ。そう言って始めたわけじゃないですか、いきいき牧場を、馬場さんは」。そういう思いを大切にしてほしいと山崎さんは言う。「本物の福祉」という言葉を使う。

「その精神をもっとおおっぴらにしたいね」とも言う。若い施設スタッフへの思いが強い。

いきいき牧場の「個性」について、改めて考えさせられたインタビューだった。

賢治と馬場さんと

馬場さんは、いきいき牧場立ち上げ前、賢治の弟・清六さん（平成13年、97歳で逝去）にご挨拶に行っている。どんな会話が交わされたか、同席した伊藤利巳さんも亡き今、知る術はない。ただ、馬場さんはとても感動した様子で帰ってきたという。

その清六さんの孫・宮澤和樹さんを、山崎さんが紹介してくださった。賢治を「賢治さん」と言う。「宮澤の血」を意識した誠実な話しぶりが印象的だった。お会いしたのは、和樹さんが経営するカフェ＆賢治ショップ「林風舎」。JR花巻駅近くの、落ち着いた店だ。そこに山崎さんの「彗星」と名付けた作品が展示されている。天の川と、賢治と賢治が愛した女性がモチーフ。賢治と馬場さんを思うのにふさわしい空間だった。

（田中　信明）

いきいき牧場の個性を明確に

もうひとつ、これだけは言っておきたいというのが、施設利用者の「死」について。「人は死ぬんだという当たり前のことに神経質になり過ぎないでほしい」と。福祉施設の老人介護施設化が進む現状だからこその言葉だ。「ピリピリし過ぎると皆がつらい。生も死も超えて仲良くやろうよ、馬場さんはそんな気持ちを持った人だったと思いますよ」と話す。

山崎さんの作品「彗星」を見上げる和樹さん